

(1) 先人の伝記

教材開発のポイント



着想

(1) 素材の収集・選定



集めてみよう

生きる勇気や知恵が感じられる素材

- ・ 生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることができるもの
- ・ 地域社会の発展への貢献等、身近な人物の魅力が表れるもの

○ 素材の収集に当たって

郷土史等、市町に残る文献や社会科の副読本など幅広く収集に当たりたい。また、地域に建立されている石碑、歴史的建造物等も手がかりとなる。

○ 素材の選定に当たって

著名な人物に限らず、これまで知られていない人物を知らせるのも教育の一つである。また、児童生徒にとって身近な地域教材であることから、活用する地域以外での認知度は選定条件として考

慮しなくてもよい。ただし、地域の先人を扱うことから、その人物の生き方を通して、生きることの魅力や意味の深さについて考えを深められることや地域に貢献していることといった視点は必要である。

(2) 情報の収集



探してみよう

多様な生き方に着目

- ・ 史実考証のための史料収集
- ・ 郷土資料、社会科副読本作成者等へのインタビュー（人物のエピソード等）

先人の情報収集においては、特に史実考証が重要である。

情報の収集に当たっては、記念館等に残されている資料（日記等）、子孫の談話等、史実を証明するための多くの情報を収集することが必要である。なお、インタビューを行う際には、先人の多様な生き方や人間味が滲み出るエピソードなどに着目

し、専門家や先人の子孫、地域のゆかりの方等、様々な立場の方から聞き取りを行うことが大切である。

その際、人としての弱さの部分については、文献に表れていないことも少なくないことから、インタビューにより引き出したい。また、話しやすい雰囲気づくりに努め、インタビューの流れや時間配分にも留意したい。場合によっては、複数回訪問することも考えなければならない。

(3) 読み物資料の作成



書いてみよう

史実と人間性に留意

- ・ ねらいにかかわる人間的魅力の伝わるエピソードの挿入
- ・ 史実に忠実な記述

① 主題やねらいを決定する

主題やねらいの決定に当たっては、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えることができるものに着目したい。

伝記には不撓・不屈や理想の実現、郷土愛等多様な価値が含まれていることから、作成に際して

は、先人の生き方から伝えたいものを焦点化し、ねらいを明確にするよう留意したい。

構成・推敲

**② 対象となる学年の発達の段階や特性等を把握する**

把握内容としては、取り上げた人物についての各教科等における学習内容、児童生徒における知名度などが考えられる。また、教師と児童生徒では着目するところが違うことから、事前に伝記を読ませて、児童生徒がどこに注目するのかを把握することも一つの方法である。

③ 登場人物や状況を設定する

登場人物や状況の設定は、史実に忠実であることが重要である。ただし、内容が歴史的に古い場合は、社会状況、地理的条件、歴史的背景などを把握しておく必要がある。また、先人の生き方の真意が伝わるような設定にする必要がある。

④ 中心場面（山場）を決め、大まかな起承転結を設定する

先人の人柄・人間的魅力が児童生徒に伝わるエピソードの挿入が求められる。人としての弱さを吐露する姿や生きる勇氣、知恵などを感じることができ場面設定などが必要である。ただし、人としての弱さは、道徳的価値に対する弱さであり、安易な弱さでないことに留意したい。

⑤ 場面分けをもとに文章化する

先人の人としての弱さ、迷い、強さ等の心の動きを行動や言葉によって表現することが大切である。例えば、「いいや、わたしが行かねば・・・」（開発例1）「・・・最後の最後まで見届けました。」（開発例2）などの記述の工夫が考えられる。ただし、史実に忠実な記述に心がけることは言うまでもない。また、児童生徒の発達の段階に応じて、歴史的な用語等、理解が難しい言葉には注釈をつけるなどの工夫が必要である。

⑥ 不要な場面や文言を削除する

先人の生い立ちや残した業績のすばらしさに注目した記述になりがちである。しかし、先人の生い立ちや残した業績については、ねらいとする道徳的価値に迫る上で必要ないものは削除し、必要最小限とすることが大切である。

(4) 授業の実施**実践してみよう****効果的な展開**

- ・ 他の教科等との関連
- ・ 記念碑や作品、写真等の活用
- ・ 経歴年表の活用

伝記を基に開発した資料であることから児童生徒の生き方の手本ともなり得るが、資料を通して児童生徒に道徳的価値や行為を押し付けることがないように留意したい。

社会科や総合的な学習の時間などで学習した内容を生かしたい。その際、地域に残る石碑や建造物、先人が残した作品等の現在まで残る功績等、学習した内容を補助資料として扱うことも効果的

である。また、時代背景や生活状況等の補足説明が必要な場合があり、経歴年表等の活用も考えられる。

(5) 体制・環境づくり**充実させよう****学校図書館等の整備**

- ・ 読書活動との関連

読書意欲を高める学校図書館や学級文庫などを整備し、計画的な利用とともにその機能の活用を図りたい。特に、道徳教育推進教師と司書教諭等との協力のもと、児童生徒の発達の段階や道徳性の育成に資する図書の選択や読み物資料の充実等

に配慮することが望まれる。広島県こども読書活動推進計画の活用を踏まえた環境整備が求められる。